社会科研究委員会

1　研究テーマ
「子どもたちのニーズにあった社会科カリキュラムの創造」
～身近な地域素材をカリキュラムに位置づけていくことを通して～

2　研究課題
（１）高山中におけるニーズのとらえ

・生徒が「おかしい」「どうして」「知りたい」という気持ちをもつこと
・教師側も、「個々の生徒にこのような力をつけていかなければ」という必要感を持つこと

（２）生徒の学びを大切にした評価からさらなる授業展開を作り上げていく。
＜指導と評価の一体化＞

＜生徒の実態＞
「社会は暗記教科」→受け身的な学習参加

＜教師の願い＞
自分で調べる楽しさを味わわせたい
興味関心を持って追究させたい

＜手だて＞　身近な教材「湯倉洞窟」をカリキュラムに位置づける。

（３）一人一人の学びの道筋を大切にし、お互いのよさに気づき関わり合う指導のあり方
↓
個々の学びの道筋を大切にし、次の学習に生かすための学習カード（評価カード）

3　指導の実際
＜研究授業＞
（１）実施期日　　平成１７年１０月１２日（水）
（２）学校名　　高山村立高山中学校
（３）単元名「歴史の流れと地域の歴史」（７時間扱い）
（４）学年、授業者名　　１年３組　後藤　真道教諭
（５）研究内容
①高山中における「ニーズ」のとらえ

生徒が「おかしい」「どうして」「知りたい」という気持ちをもつために（湯倉洞窟への興味関心を持てるように）

（生徒側のニーズ）
↓

湯倉洞窟から発掘された出土品としてビール瓶や人骨、土器、須恵器、石鏃、獣骨、寛永通宝、内耳土器を取り上げ、それぞれどの時代のものか考えさせる。（実物を用意し、見て触れるようにする）

個々の生徒につけるべき力
「縄文時代が８０００年も続いていたことに気づかせる」

（教師側のニーズ）
↓

湯倉洞窟から発掘された出土品それぞれがのどの層から出てきたか考えさせ、第Ｉ層に鎌倉～昭和時代が収まることに気づかせる
↓
縄文時代の長さを、層の厚さから実感させることができる

②生徒の学びを大切にした評価からさらなる授業展開を作り上げる

湯倉洞窟から発掘された出土品がどの時代のものか確認した後、それぞれの出土品がどの層から出てきたものか考えさせた

↓

「第Ⅰ層に鎌倉～昭和があてはまる」という生徒が予想もしなかった結果に出会う

↓

縄文時代の長さを視覚的にとらえることができた
（生徒の感想：つぶやき）
「縄文時代がこんなに長かったなんて驚きです。」

③一人一人の学びの道筋を大切にし、お互いのよさに気づき、関わり合う指導
個々の疑問や気づきを次の学習に生かしていくための評価カードを使う。

本単元は、中学校における歴史学習の導入

＜本時までにおける生徒の歴史学習の実態＞
前回授業の自己評価カードに
「年表がわからないので頑張って覚えたい」
「歴史の時代が全部言えるようにしたい」と書いた生徒がいた
↓
本時の導入時に位置づけ、時代の流れを全体で押さえた

4　この事例から明らかになったこと
（１）生徒にとって身近な湯倉洞窟をカリキュラムに位置づけたこと
総合的な学習で湯倉洞窟へ行ったことがある生徒の発言
「２m以上の層が堆積していて１万２千年もの歴史を持つ洞窟です。」
これで、自分たちの高山村にこんなすごい洞窟があると実感し、学習の動機付けができた。また、実際に出土した物を準備したことで、湯倉洞窟への興味関心を大いに抱くことができた。（生徒側のニーズ）
湯倉洞窟の断面図をよく見ると、ほとんどの層が縄文時代までのものであり、縄文時代の長さを実感させることができた。
（歴史等尺年表を実感させたい教師側のニーズ）

＜課題＞
出土品として扱った品について、「どの時代のものか」確認させたが、少しわかりにくかった。

（２）評価カードの工夫
・単元を通して一枚の学習カード（評価カード）を使用した
→生徒一人一人が感じていることや疑問に思っていることを教師がつかみやすく、それをもとに次の授業の組み立てもできる。

5　来年度への課題
（１）授業校における児童生徒の実態を早めに把握する。
（２）お互いのよさに気づき、関わり合う指導のあり方を探れずに終わった。
個々の疑問や気づきを次の学習に生かす評価カードについては研究したが、それを生徒どうしどう関わらせていくかを探っていく必要がある。